



研修会等報告(復命)書

三次市議会議長 様

会派 真正会
氏名 横光春市



下記のとおり、研修が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視察議員	真正会 横光春市			
期間	平成30年7月17日(火)～18日 (2日間)			
研修先	東京都新宿区霞ヶ丘町4-1 日本青年館ホテル			

目的・課題

三次市が議会改革ランキングも全国25位にアップしてきた。しかし、三次市議会の議会改革の輿地はまだ多くあると考える。そのためのヒントを求めて、第23回清溪セミナーに参加して研修することとした。

【7月17日 13:00～14:45】	
研修内容	講座Ⅰ 会津若松市議会の挑戦～政策形成サイクル確立
講師	会津若松市議会 議長 目黒章三郎氏

政策サイクルとその成果について

地方議会は「民主主義」の学校になっているのか？

目的は、住民自治の充実による住民福祉の向上に

議会改革は、住民自治の充実による住民福祉の向上に繋がっているか？

市民の意見を良く聴いて、それをよく考えて、検討して政策につなげる

▲ 市民との意見交換会

議員一人の発言は、線香花火くらいでも、議会としての決定は打ち上げ花火ほど大きい

議会の三つの役割

①監視機能 ②政策立案機能 ③民意吸収機能

三つの役割を果たすための「仕組み」をつくり、住民自治の充実につなげていくか？

議会改革＝議会活動活性化の事始め

①議長選挙で「所信表明会」の実施 ②請願・陳情者の意見陳述の確保

②「議員間討議」の導入

④タウンミーティング時の「市民の声」を政策化するための仕組みづくり……等

【所見】

会津若松市議会の議会改革の取組の中で、議長選挙での「所信表明会」は出来ているが、その表明が選挙に反映しているかと考えさせられる。

また、「議員間討議」では、三次市議会では「自由討議」を昨年度導入した。総務常任委員会の中には議会改革推進特別委員会のメンバーが多く在籍し「自由討議がなされたが、他の常任・特別委員会で余り実施出来ていないようにも見受けられた。



互いに理解を深め、市民に分かりやすく説明するためにも、なぜ、自分が賛成したり、反省したりしたか納得して態度を表明する上でも「自由討議」は必要と強く感じた。

また、三次市議会で実施の「議会報告・懇談会」で出された市民の意見を政策化するためにも、各委員会で協議・検討・研究する必要がある。現在、懇談会で出された意見は、広報広聴常任委員会で各委員会へ閉会中の審査事項として担当していただいているが、その進捗状況も気になるところであるが、一人の意見として提案するのではなく、各委員会での提案とな留事を期待する。

【7月17日 15:00～16:45】

研修内容 講座Ⅱ 住民主体の議会改革とは何か

講師 法政大学副学長 廣瀬克哉氏

【研修内容】

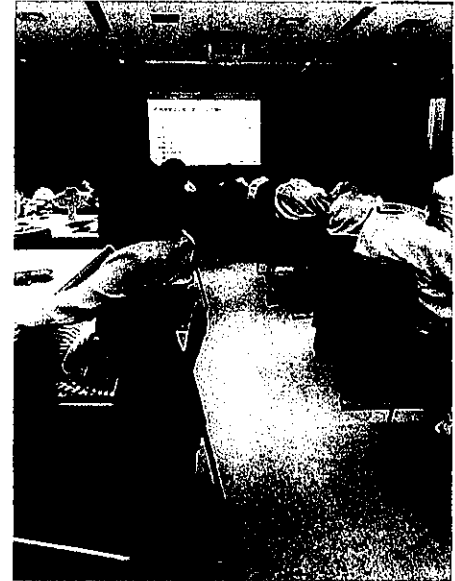
- ・ 行政には、行政の都合があるが、議会は市民の声を・意見がある。→議会への市民参加
議案審議中に市民の声を聴いて、その意見を参考として良いのでは→広聴
- ・ 平成の大合併 → 自治組織を組織して地域のことを行う
→ 地域のつながりのある市議会議員は何を → 市全体の事を議論
- ・ 現役で仕事をしている人は、あまり自治体の世話になっているという気持ちはない。
→ では……ゴミの処理は？ 水道は？……世話になっている気持ちはないらしい。
- ・ 行政には、何を言っても良いと言うような気持ちの人が多くなっている。
- ・ 議案の議決において、市民に正しく説明できないと、市民は納得しない。
→ プロセスが議場で議論されないと、議事録に残らない。
→ 正しい説明・議論されている……説明を聞くのはよく分かるし共感を生む。
- ・ 議会改革
→ 多様な論点、多様な見方で議論する方が市民に分かりやすい議会審議となる。
→ 審議の質を上げることにつながる。

【所見】

研修を受けながら、議員生活2年余りの議案審査を振り返ってみて、議案一つ一つの内容をしっかりと解釈すること。

以前から、執行部の説明を聞き、議員と執行部で質問答弁で議案審議を行い議決では、如何なものかと考えていた。

執行部の説明を聞き、議員間で「自由討議」を行い議論することは三次市議会でも取り入れているが、それに加えて、市民の声を聴くこと(ものけ審議では取り入れたが)を、重要な議案の時には常態化することは必要と考える。



【7月17日 17:10~18:30】

研修内容	グループワーク 議会改革を進めるために～講義 I・IIをヒントに
講師	ファシリテーター 亀井誠史氏 (自治体議会改革フォーラム)

- ・参加者をグループ分けし、議会改革を進めるためにどのように考えるか？一つの問いに対しグループ全員でA3用紙に要点を記入して説明。

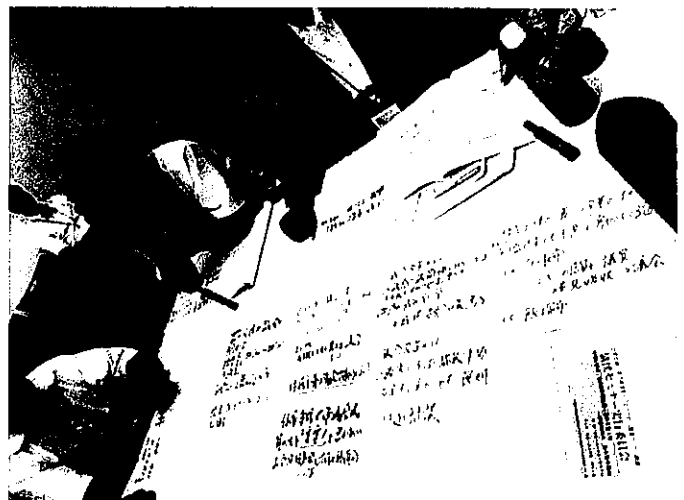
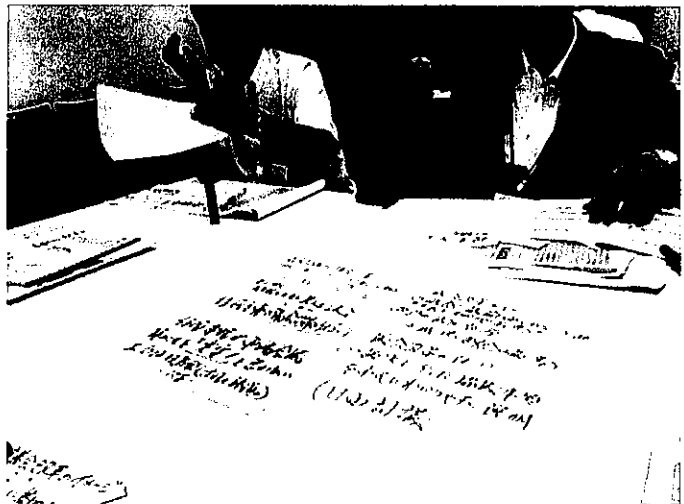
【所見】

グループワーク、三次市議会の議会報告懇談会で取り入れている手法である。2分間で思いを書いて、グループのメンバーに報告する。

一人一人の思いが、A3の用紙に用紙が記入してあり、会議終了後にまとめる場合に有効であると感じる。

議員の集まりであり、思いを語るに戸惑いはないが、市民相手ではどうだろうか？すべての人が思いを語る事が上手に出来るとは思わない。上手に話さなくてよいが、ファシリテーターの進め方、何を参加者に求めるのか？グループワークを進める事前の学習が必要と考える。

市民の意見は大切にしたいし、市政の届け、政策として活かされるものは活かしていきたい。



【7月18日 9:30～10:45】	
研修内容	講座Ⅲ 2019統一地方選～浮かび上がる政策課題
講師	東北福祉大学特任教授 常任講師 福岡政行氏

【研修内容】

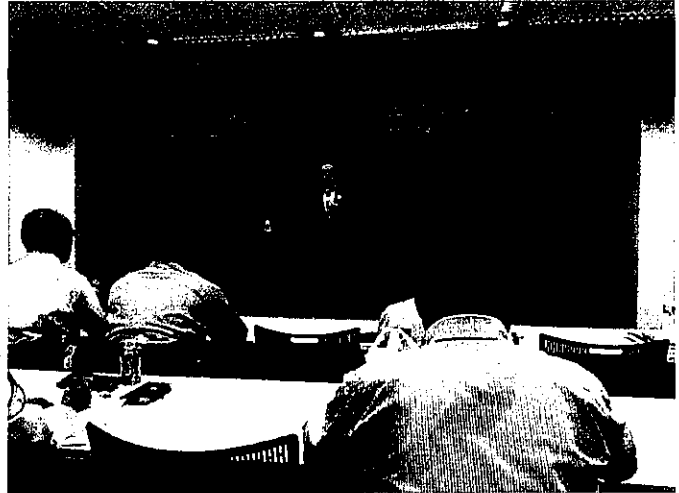
- ・ 小沢一郎氏が小泉純一郎氏を講師として勉強会を開いた。反原発というつながりで、来年の参議院議員選挙で何かをやらうという腹か？
- ・ 米朝会談……安倍首相はカヤの外……拉致問題解決は難しいものがある。
……自分ならどうにかする。小泉氏が首相の時には自分も関わった。

【所見】

福岡氏は安倍首相から距離を置く立場の人で、政府のやり方に批判的である。

福岡氏のゼミの教え子が報道関係に多くおられるようで、政界の裏側の情報は多く入っているようだ。

自分としては、あまり参考とはならなかった。



【7月18日 11:00～12:00】	
研修内容	講座Ⅳ 地方財政の現状と課題
講師	総務省自治財政局財政課長 大沢博氏

【研修内容】

- ・ 地方財政の現状
 - 歳出規模(決算) H18年＝89.2兆円 H28年＝98.1兆円
歳出の増加は、社会保障費が増加している。
 - 国庫支出金 H18年＝10.4兆円 H28年＝15.6兆円
増加は、社会保障費が増加している。
 - 基金残高 H18年＝13.6兆円 H28年＝21.5兆円
東京都の基金が増えている。
- ・ 投資的経費の推移を見てみると、公共事業は半分になっている。
高度経済成長期につくった施設等の更新時期がくる。出来るのか……心配
- ・ 民生費等の推移を見てみると社旗保小は伸びている。
公共事業と人件費を落としているが、限界に来ている……税を伸ばすしかない。

【所見】

臨財債は地方交付税に参入されていると説明されたが、臨財債の伸びの割合に対し、地方交付税は余り伸びていない。と言うことは、その他の地方交付税の算定において減額しているということに繋がる。そんな思いが湧いてくる。

地方自治体においては、定員管理計画において職員数を削減しているが、そこにも限度がある。職員数を減額することは、一見良い方向に見えるが、市民サービス悪くなると考える。

実際、西日本豪雨災害が発生したときの行政の対応、職員数の少なさによって対応出来ない面が見えてきた。行政の限界……市民との協働を真剣に考えるときが来ていると感じる。



【7月18日 13:00~15:00】

研修内容	講座V 真の地方創生と議会の役割
講師	早稲田大学大学院政治学研究科教授 片山善博氏

【研修内容】

- ・ 地方創生とはなにか！成果は見えたか？大変な金を使っているのに。考え方は良いが、成果が見えてこない。状況は改善されていないのではないかな？やり方を変えたが良いのでは……
- ・ 日本創生会議のレポートが発表された。
 - ①890自治体が消滅する可能性があるという衝撃的なものであった。
 - ②東京都圏域では高齢化の危機にある。250万人の出生数が90万人減少している。日本創生会議の思いは①よりも②の方に重きがあった。高齢者の方に地方へ住んでほしいという思いがあったようだ。
 - ①を発表することによって、東京圏域から地方に住むように、地方に引き取って欲しいという思いがあった。
- ・ 若者は地方に残りたいと思っても、地方に魅力や仕事がない。
- ・ 地産地消……皆が飲めば、消費が上がる。……雇用が増える
……他の地域の人も飲めばより広がりがあり消費が増える
- ・ 地産地消……経済的に考えれば、雇用を増やすことに繋がる。
学校給食も地元の作付け状況を調査して、給食献立を考えるとよい
- ・ プレミアム商品券は、県内産品を購入(三次産品?)ならその商品券の価値はあるが、圏域外の商品であると、活用した人や商店は少しは良いが、地域全体の経済力アップには繋がらないのではないかな？せめて、県内産にすれば県全体のアップに……

- ・ 地域本位に考える力

地元本位を本当に考えているか？胸に手をあてて考えて見よう。議会が、会派で考えていると、本物の議論がなされないのではないか？地方議会では、議員が市長を選んでいる(国は議員が総理大臣を選ぶ)二元代表制である。与党も野党もない。従って、市民本位。地方本位を考えて見てはどうか。

【所見】

日本創生会議の発表は、地方を馬鹿にしているような思いを持っての発表に思えて成らない。それだけ、地方は魅力を持って生きていかななくてはならないと考える。

地産地消は地元の産品、消費、生産者の収益の面を考えて居たが、もう少し広く考えると、雇用に繋がっていると言うことと。本気で取組を都……

プレミアム商品券。改めて、議員同士で議論の必要性がある。

ふるさと納税にも話が及び、その是非、地方を応援するという、始めの発想は良いが、返礼品がある事によって、考え方・見方を変えると故郷産品を商品価値を落としていることに気づかされた。非常に残念である。

一つの事業を興すことによって与える影響、そのことを深く考えて議論する必要があると気づかされた研修であった。

